

エスカレーターは大量に人が垂直移動するのに有効な手段であり、特に高齢者や歩行困難者にとっては垂直移動の手段として便利な設備である。しかし、転倒時等には、大きな事故となる危険もあるため、だれでも安全に利用できるように配慮が必要である。また、上り用と下り用をそれぞれ設置することも重要である。

車いす使用者の利用を想定する場合には、安全な利用のために車いす対応エスカレーターとする。

整備基準	目標となる指針
<div><p><b>5 エスカレーター</b></p><p>エスカレーターのうち1以上のものは、次に定める構造とすること。ただし、4の項〔エレベーター〕に定める構造のエレベーターを設置する場合においては、この限りでない。</p></div> <div><p>(1) 幅は、内のりを80センチメートル程度とすること。</p><p>(2) エスカレーターの乗降口の両側に設ける移動式の手すりの水平部分の長さは、1.2メートル以上とすること。</p><p>(3) 乗降口の床面は、色による縁取りその他の方法により乗降口の床面とくし板とを識別しやすい構造とすること。</p></div>	<div><p><b>5 エスカレーター</b></p><p>1 不特定かつ多数の者が利用するエスカレーターのうち1以上のものは、次に定める構造又は高齢者、身体障害者等が円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律施行令第13条第2項第6号の規定に基づき国土交通大臣が定めた構造方法を用いるエスカレーターで車いす使用者が円滑に利用することができるものとすること。ただし、4の項〔エレベーター〕2に定める構造のエレベーターを設置する場合においては、この限りでない。</p><p>(1) 幅は、内のりを1メートル程度とすること。</p><p>(2) エスカレーターの乗降口の両側に設ける移動式の手すりの水平部分の長さは、1.2メートル以上とすること。</p><p>(3) 乗降口の床面に、色による縁取りをすることその他乗降口の床面とくし板とを識別しやすい構造とすること。</p><p>(4) 乗降口のステップの水平部分は、3枚以上とし、定常段差に達するまでのステップの水平部分は5枚以上とすること。</p><p>2 1に定める構造のエスカレーター以外のものは、規則別表第2のイの表〔建築物〕5の項〔エスカレーター〕に規定する構造とすること。</p></div>

整備基準の解説

●整備の対象  
エスカレーターを設置する場合には、一以上のエスカレーターを車いす使用者等が利用できる構造とするが、整備基準を満たしたエレベーターがある場合には設置しなくてもよい。

項 目	解 説
(1)幅	○車いす使用者が乗り込む時に両手で手すりを握むことができる1000型（ステップの内のり幅80cm程度）とする。 ⇒図1 参照

目標となる指針の解説

●整備の対象  
不特定かつ多数の者が利用するエスカレーターのうち、一以上のエスカレーターを車いす使用者等が利用しやすい構造とし、その他のエスカレーターは整備基準を満たすものとする。ただし、目標となる指針を満たしたエレベーターがある場合には設置しなくてもよい。

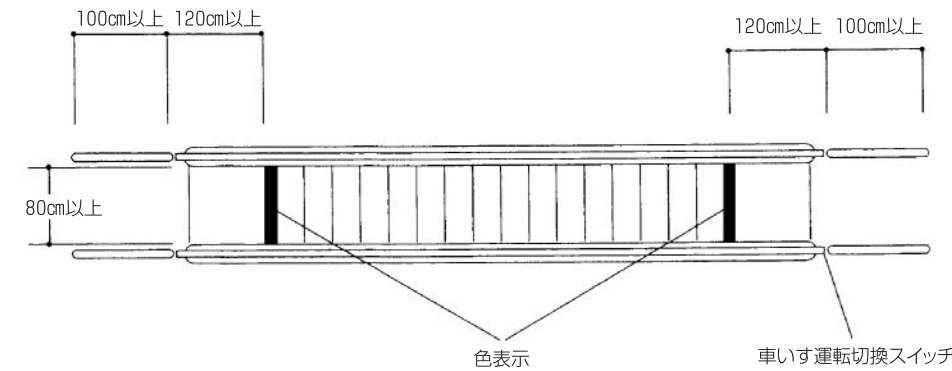
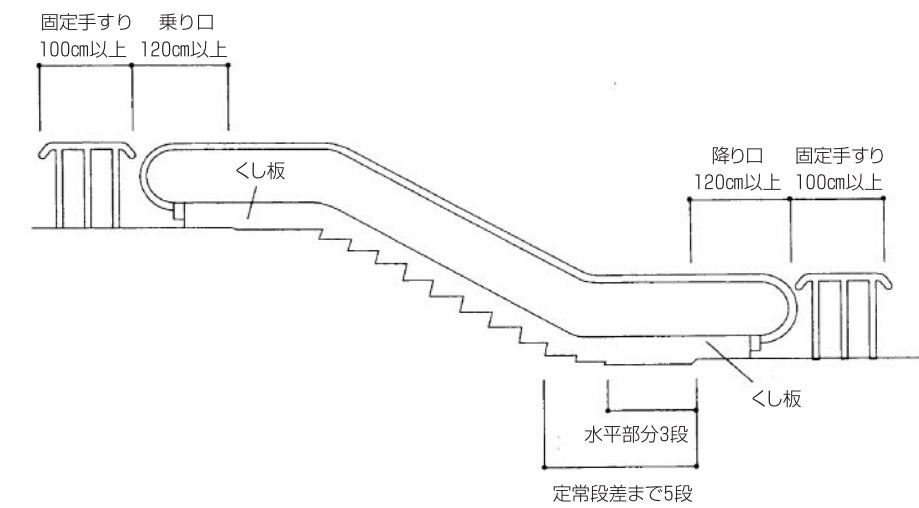
項 目	解 説
(1)幅	○車いす使用者にとっては、両手で手すりを握めないが、高齢者や身体障害者等が介助者と並んで乗り込むことができる1200型（ステップの内のり幅100cm程度）とする。

配慮事項

項 目	解 説
車いす対応エスカレーター	○介助係員の呼び出しインターホンを設置し、車いすで利用できることを表示する案内標示を設ける。
手すりの構造	○歩行困難者の中には移動手すりの動きに足がついて行けずに転倒することがあるので、乗降口には長さ100cm以上の固定手すりを移動式手すりに連続して設け、点字又は記号による案内表示（現在位置、階数、運転方向）を取り付ける。 ⇒図1 参照

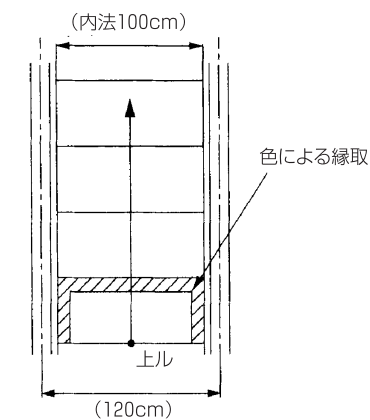
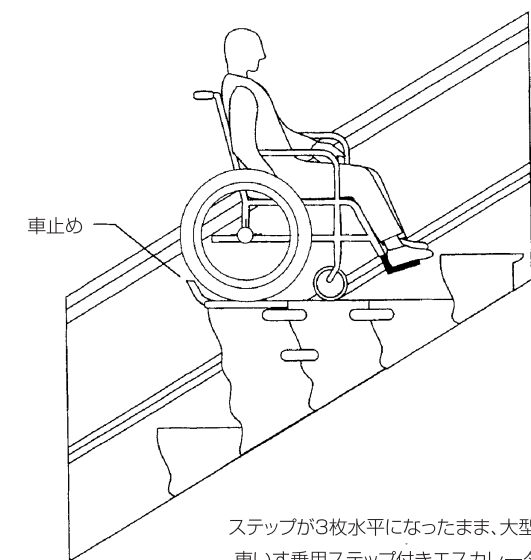
エスカレーターの基本寸法（図1）

エスカレーター



車いす対応エスカレーターの例

ステップ部の縁取りの例



ステップが3枚水平になったまま、大型車いすを運べる  
車いす乗用ステップ付きエスカレーターとする。  
乗降時にはスピードが遅くなる。  
（ステップ2枚半の機種もある）